

第四回全国大会出場者による全国大会感想

北海道大会代表：旭川東高校 重綱孝祐さん

私は昨年もエコノミクス甲子園全国大会に出場しました。昨年に引き続きまた感想文を書くことができることを幸せに感じます。

この感想文を書く前に、昨年の感想文を読みました。昨年の大会の成績は13位で、私も、また相方の塩越君も納得できるものではありませんでした。そこで今年の大会は自分たちが納得のいく大会にすべく、昨年を遙かに凌ぐ勉強量で参加しました。

全国大会に行くには必ず地区大会で勝たなければなりません。昨年の大会で優勝している私たちはこれ以上無いプレッシャーを感じました。しかし、昨年の経験も活きて決勝まで駒を進めることができました。決勝に進出したチームには部活の後輩もいたため、いっそうのプレッシャーの中、早押しクイズを行いました。戦いは9対9までもつれ込みましたが、最後には私達が勉強してきたことは無駄でなかったことを証明できました。また、良きライバル、良き仲間として戦ってくれた部活の仲間には感謝の嵐です。

「また全国大会に行ける！」。それは昨年のリベンジを果たせることを意味していました。昨年の感想文で私は「来年もまた全国に行きたい。というより、必ず戻ってくる！その決心を胸に、また経済、金融のことについて深く学んでいこうと思います。」と書いています。まず一つ願いを叶えることができた私たちは、次なる夢を叶えるべく再び勉強をはじめました。

そして全国大会。事前に告知されていたことも含め、勉強量には多少の自信と不安が入り交じった状態で参加しました。今年の大会は、初日に筆記クイズがおこなわれました。この筆記クイズでは全体で2位の成績をとることができました。またこの日には、大会で行うプレゼンクイズのために、プレゼンをするチームごとに割り当てられた街に出向き、フィールドワークを行いました。私たちのチームは高田馬場が割り当てられ、現地で市場調査を行うなど、貴重な体験もできました。他のチームと議論を重ね、大会初日が終わりました。大会二日目。この日が本番と言っていいでしょう。会場は昨年と同じでハリウッドホール。最初にG20クイズを行いました。このクイズでは全体の真ん中ぐらいの点数を稼ぐことができました。次に問題のプレゼンクイズです。私たちの順番は一番でした。プレゼンの内容には相当な自信を持っていたため、感情を大いに込めてプレゼンを行うことができました。結果として内容の点は低かったものの、情熱賞をいただくことができました。次にビジュアル連想クイズを行いました。このクイズでは私達は全体のトップの点をかせぐことができ、この先の展開にも大いに役立ちました。

ここで中間発表。これまでラウンドごとの順位を書きましたが、本番の時は全て非公開だったため、この中間発表まで何もわかりませんでした。たくさん的高校名が呼ばれていきますが、私たちの名前はいっこうに呼ばれません。やはり勉強量が足りなかった…と、後悔もしました。しかし、呼ばれたチームは敗者復活戦を戦うチーム。つまり呼ばれていない私たちは、準々決勝に駒を進めていたのです。

私たちは準々決勝2位の成績で、ぎりぎり準決勝に駒を進めました。準決勝の論述クイズは1対1の形式で、私たちに与えられた問題は、『鳩山イニシアチブによってどのようなビジネスチャンスが生まれるか?』というものでした。この問いについて5分間で論述を考え、1分間のスピーチをします。相手は鹿児島県のラサール高校でした。21人の審査員(地方銀行の担当者の方々)が1人1票をもち、どちらの方がよかったか投票します。10対11で私たちは負けてしまいました。昨年の大会より数十倍、数百倍悔しく、涙も出るほどでした。しかし、涙が出るほど悔しかったということは、自分

たちのやってきたことが足りなかったのと、ここまでこれたのは自分たちの勉強が正しかったと言うことの証明だと私は考えました。私たちに勝って決勝に進んだラサール高校は全国優勝しました。そんな相手と対等に戦えたことに自信を持っています。いくら悔やんでも結果は変わりません。夢は叶いませんでしたが、私たちが昨年以上に良い戦いができたことに大きな達成感を覚えました。また、エコノミクス甲子園では全国にたくさんの仲間をつくることができました。気兼ねなく、全国の人と仲良くなれる点でもエコノミクス甲子園はすばらしい大会だと思っています。

最後になりましたが、2年にわたり事務局の皆さん、また学生スタッフの皆さんには大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げたいと思います。

ありがとうございました。

北海道大会代表：旭川東高校 塩越希さん

僕は幸運なことに、去年に続いて今年もエコノミクス甲子園全国大会への切符を手にすることができました。今年は、去年以上に貴重な体験をさせていただき、充実した大会になりました。

圧倒的な力を見せ付けられた前回の第3回全国大会。すごい人たちが沢山いました。他のチームが次々と、僕が聞いたこともない言葉を答え正解していく。そして、そんな中で僕はほとんど何もできず、ただ自分の無力さを恥ずかしく思って立っていました。用語をチェックするくらいの薄っぺらな勉強しかしていませんでした。完敗でした。地方を勝ち抜いたことで天狗になっていた鼻を、思い切り折られました。自分では精一杯勉強したつもりになっていました。「悔しい。」その気持ちが、今回の大会へのバネになったように思います。

それからというもの僕は必死に勉強しました。経済のニュースに目を通し、さまざまな経済書を読み漁りました。そうして勉強しているうちに、去年ではわからなかったことが沢山見えてきました。なんとなく理解したつもりになっていたものの本質が、はっきりとわかるようになりました。「これなら行ける。」そんな実感が、自分の中に芽生えていました。

そして迎えた地方大会。しかし、決して楽な戦いではありませんでした。どのチームもしっかりとした対策をとっているな、と思いました。決勝は、前回と同じくギリギリの戦いになりました。負けたチームのためにも、北海道代表として恥ずかしくない戦いをしよう。そう決意を固め、全国大会に向けて、二人で猛勉強を始めました。金融知力普及協会から新しく配られたテキストを読み込み、自作問題や過去問を何度も何度も解いて…。あっという間に全国大会の日はやってきました。いきなりプレゼンのためのフィールドワーク。早くも、これは去年と全く違う大会になるという予感がしました。そして、迎えた二日目。僕たちは準決勝の、論述クイズで負けました。ああ、終わった…体の力がふっと抜けた感覚を、今でも覚えています。しかし、不思議と心の中は充実感と、達成感でいっぱいでした。悔しくないといえば嘘になります。帰ってから、布団の中で泣くほど悔しかったです。しかし、それは去年とは違う悔しさです。悔しいと思えてよかった。そう思える悔しさです。去年13位だった僕たちが準決勝まで上がったのは、決して時の運だけではないと思います。寝る時間や、学校の勉強をする時間を削って経済を勉強しました。二人で、積み上げてきたものがこの結果に繋がったのだとはっきり思えます。僕たちの努力は決して無駄ではなかったと、心から思えます。

この大会に関わった人全員に、言葉では言い尽くせないほどの感謝でいっぱいです。去年に続いてチームを組んで、忙しい中勉強に付き合ってくれた重綱。共に戦ったみんな。スムーズに、時にはサプライズで楽しませながら大会を運営してくださったスタッフのみなさん。銀行のみなさん。本当にありがとうございました。僕も、もっともっと経済を勉強して、一回りも二回りも大きくなって、スタッフになって恩返しをしたいと思います。大学生スタッフのみなさん、本当にかっこよかったです。

これからの日本は、世界は、大きな変動を迎えていくでしょう。人口の減少、新興国の台頭、資源の枯渇、新たな脅威となった証券化、環境問題…。解決しなければならない難題が、僕たちの前には沢山横たわっています。そして、社会には矛盾が満ち溢れています。そして、その矛盾に苦しめられている人々が沢山いるのです。経済の語源は、「経世救民」一国を治め、民を救うというところから来ています。エコノミクス甲子園を通して学んだことをそのままにしておいては意味がない。まだまだ僕には力がないけれど、経済を、社会を変えたい。そう強く心に思いました。同時に、これはエコノミクス甲子園出場者に課された宿題でもあると思います。

最後に、エコノミクス甲子園に出られたことを本当に誇りに思います。あの大会での、一分一秒が、一瞬が僕にとっては宝物です。最後に、優勝したラサール高校の言葉を借りて、締めくくりたいと思います。

「I love economics.」

岩手大会代表：水沢高校 金野耕大さん

全国大会から2週間近く経ちましたが、自分がこのエコノミクス甲子園全国大会に参加できたことが今でも信じられません。私は教室の黒板に要項が掲示されて初めて大会の名前を知りました。私は経済への興味はあったので理解を深めたいと思い、水沢高校音楽部の宣伝もかねて県大会に出ることにしました。

岩手県大会は参加チームが8チームと少なかったことを覚えています。初めて参加するクイズ大会だったのでかなり緊張していました。しかも定期テスト明けという経済の学習が不十分な状態での参加。しかし相方の強力なサポートのおかげで、結果はまさかの優勝でした。うれしさの反面、実は全国大会の日は別の予定が入っていたのでどうしよう…と思いました。何とか変更できたのでよかったです。

水高にはクイズ研究会がなく、エコノミクス甲子園がどんな大会か分からなかったため、全国大会に向けて google で検索し、政経の資料集を読み込みました。知識の量をとにかく増やしたかったのですが今考えるとあまり定着していなかったのが残念です。

そして迎えた1日目。自己紹介がハイレベル?で全国の壁を知りました。フィールドワークは巣鴨班でした。着いてみると洋服店・お土産屋が多い。なんと物件が2階。おばあちゃんの前宿なのに2階って、条件が悪すぎると思いました。浦和は行動力があって、東大寺は意見が鋭く、昭和薬科はプレゼン慣れしていて圧倒されました。

そんなこんなで筆記試験。地区大会とはレベルが格段に違う。用語を問う問題よりも説明といった本質を求めるものが多かったです。自分の勉強不足を感じました。

2日目。G20 クイズ。参加チームが20でG20に関するクイズだからチームに国が割り当てられるのかなと予想していました。間違えるとマイナス5点は大きかったです。リスクを考えるべきでした。次に連想クイズ。これはそれなりに点が取れました。クイズをやっているという気分になりました。さらにプレゼン。水高は時間使いすぎました。中間発表。何となく結果は予想していましたが本当にショックでした。その後の敗者復活では、早押しでランプを点灯させることすら出来ませんでした。やはり勉強不足でした。敗退後はクイズ大会をテレビで見ているのと同じ気分でした。本当にすごかった。

大会を通して、全国のレベルと高さや経済の奥の深さを知りました。少なくとも日本は100年に1度といわれる不況なので、これから社会に出る高校生は経済を学習すべきだと思います。理系だろうと文系だろうと経済の知識は生きていくためにも必要なはず。私もエコノミクス甲子園のおかげでより一層経済に興味を持つことが出来ました。ぜひ将来47都道府県すべてで地区大会が開催されるような大会になって欲しいです。

また、非クイ研で集まったのも楽しかったです。自分の視野が広がりました。いろいろな分野において…。

そして、おそらくこれを見るだろう来年の岩手県代表のかたへ、幅広い知識と体力を持って行ってください。最後になりましたが、主催者の皆様、岩手銀行の方々、各地の代表の皆さん、そして相方には心から感謝しています。ありがとうございました。

宮城大会代表：仙台第一高校 川合雅さん

2009年12月13日七十七銀行本店（宮城県仙台市）

お姉さん：「PPP、QQQ、RRR・・・」

お兄さん：「点いたのは仙台第一 AK 砲！」

相方：「P、P、ピー？」

ピンポンピンポン・・・

なぜこれで正解なのかわからない間に、私は宮城県大会を勝ち上がってしまっていました。今考えれば私の大会参加意欲はおそらく他の地域の代表の方より低かったと思います。事前に渡された学習教材も半端に読んでいた結果、うろ覚えの知識ばかりで、脳内には大会本番では全く役に立たない知識ばかりが残っていました。

2010年1月9日全国大会前日、あまりにも対策不十分な私たちは諦めの境地におり、始まる前から「これは来年への布石だ。」と言っていたので、大した緊張もせずにいました。各地域の代表者が集まっている場所で気になったのは、（私達を除いた）周りの人たちがすごく親しそうに話していることでした。後から聞けば今年『2年連続組』が多かったらしいです。これで完全に決定です。「僕らの冬は終わった。」

大会の結果は御察しの通り完敗でした、完全に力…いや、知識不足です。そのため大会は参加者というよりも観戦者という感じでした。しかし見ているだけでもワクワクする展開、他の代表の方々の経済に関する『広く』『深い』知識に驚いた時間は、そこら辺のテレビ番組を見るよりも何倍も面白かったです。

エコノミクス甲子園を通じて得たものは多少の経済知識はもちろんですが、「ああ、全国には同世代でこんなにすごい人たちがいるんだな」という人たちと友達になれたことです。北は北海道から南は沖縄まで、全国20校40人、色んな人がいました。おそらくこれからも色んな人がこの大会に参加することでしょう。この大会に参加した不甲斐ない1人として言えることは「高校生なら出なきゃ損だろ」ということです。願わくは「全国47都道府県の代表チームが一堂に会する」様な大会になり、本家甲子園のような冬の風物詩になることを祈って筆を置きます。

宮城大会代表：仙台第一高校 相澤幸之助さん

私は経済学部志望で、高校ではクイズ研究部に所属しているため、「全国高校生金融経済クイズ選手権」と銘打つこの大会に以前から興味を持っていました。そして、第四回にあたる今回は地元仙台でも地区予選が行われると聞き、すぐさま申し込みました。

地区大会では、私はあまり勉強しなかったにも関わらず、相方の活躍により全国大会進出を決めることができました。それから全国大会までの間、「勉強せずともそこそこ戦えるのではないだろうか」という馬鹿な考えを持ってしまい、対策もろくにしないまま全国大会に臨んでしまいました。案の定、本番では私の知識の無さが足を引っ張り、ふがいない結果に終わってしまいました。応援して下さった方々や地区予選で戦った人達に大変申し訳ないと思います。

全国大会に参加していた他の高校は優勝目指して努力を重ねてきた人達ばかりで、プレゼンクイズや論述クイズなど、金融経済に関する知識だけではなく、色々な能力を求められるクイズでも活躍する姿に圧倒されました。

この大会を通して学んだことや、多くの学校の人達と交流できたことは私にとって大変価値のあったことだと思います。後輩たちには今回私たちが経験したことを話し、次回以降に向けて頑張ってもらいたいです。

最後になりましたが、このような大変素晴らしい大会を開いてくださった金融知力普及協会様、本当にありがとうございました。

秋田大会代表：秋田商業高校 加藤光さん

エコノミクス甲子園に参加して

私は今回が2回目のエコノミクス甲子園参加ということで、少しでも全国の高校と互角に戦えるようにと金融・経済の学習をしてきました。そして、いざ全国大会。しかしそこで待っていたのは前回は参加した人々ばかり。しかも自己紹介カードを見てみると半分以上のチームがクイズ研究会の人たちでした。これを見たとき去年自分が全くと言っていいほど解答できなかったことを思い出しました。やはり自分は場違い？と思いつつも初日集合場所のりそな銀行に全チームがそろおうのを待ちました。

そういえば去年は徹夜でプレゼンの準備をしていたけど今年もやるのかな？と考えていたら案の定徹夜になりそうなビジネスアイデアプレゼンクイズがありました。私たちは高田馬場という、秋田出身の私は全く聞いたことがない街のグループに加わることになりました。とりあえず、自分は他のチームの足を引っ張らないようあれこれ提言してみたりプレゼンテーションを作成しました。結局高田馬場チームはクイズカフェというアイデアで勝負にでることになりました。そしてその日の夕方、何はともあれようやく夕食を食べられる…と油断していたところでいきなり筆記クイズと言われました。去年もそうでしたが、この大会はやっぱり選手を休ませるつもりはないんだなあと思いました。その日はクタクタになりながらも12時には就寝することができました。

2日目、いよいよ決勝大会。滑り出しは順調で、第1クイズはなんと一抜けすることに成功しました。次の第2クイズでもまずまずの成績を残せたのはいいのですが、結局は筆記がボロボロだった上プレゼンクイズでも1位になれなかったためか、決勝勝ち抜けはできず、敗者復活の早押しでも身動きすることさえできずに終わってしまいました。やっぱりクイズ研究会には勝てないなあ、それ以前に進学校に勉強では勝てないなあということ思い出されました…。とはいいいつつ、遠い地方の人々と3日間行動を共にし友好を深めることができたことが私にとって優勝以上に大きな経験となったと思います。

最後に、歴史的不況といわれている今日において金融知力はもちろん大切であるし、またそれとは別に友好を深めるという意味でも今回のような大会は有意義であると思います。これからも10年20年とこのエコノミクス甲子園は続けてもらいたいです。貴重な経験をありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

秋田大会代表：秋田商業高校 吉田伸一さん

私は今回初めて全国大会に出場しました。きっかけは、去年の秋田大会で優勝した光君から、既に進路が決まっていた去年の秋田大会に参加した私に相方になって欲しいと声をかけられたからでした。

秋田大会では、早押しを全て光君に答えさせてしまいました。全国大会ではもっと強豪校と競うのだから、私もやれるだけのことはやろうと思い、できる限りの勉強をしました。

全国大会1日目。相方から去年のプレゼンの話を聞いていたので今年も何かあるだろうと思っていましたが、今年もやはりプレゼンがありました。私達の班は、旭川東、秋田商業、仙台第一、聖光学院の4校で、場所は高田馬場でした。フィールドワークは、全員で協力し、積極的にインタビューすることができました。

リサーチが終わり、オリンピックセンターに着くと待ちに待った夕飯の時間でした。歩き疲れれば腹も減る、どんなご飯だろうと心躍らせて会場に入ると筆記試験会場でした。このときはショックから人間不信になりました。

プレゼンを作っているときは、私が商業高校で、基礎学力について劣る部分があるとは思っていましたが、各高校の方々の教養、考え方がハイレベルで足手まといにはならないようにしよう…と精一杯でした。

大会の成績はあまり良くなかったのですが、順位以上に参加した高校、スタッフ全員が仲間となってやり遂げた達成感で胸が一杯でした。あと1年若かったら、もう一度来たいと思いました。

今まで深く勉強したことのない金融・経済についての勉強は良い経験になり、全国大会で知り合った仲間は、私にとってとても大きな思い出になりました。金融知力普及協会を始め、参加した皆、スタッフの方、エコノミクス甲子園に関わった全ての方に感謝です。ありがとうございました。

埼玉大会代表：浦和高校 安藤出海さん

「勉強不足」。その言葉で私のエコノミクス甲子園は尽きると思います。とりあえず、会い方には自分からエコノミクスに誘いながらも、自分ではほとんど何もせずに任せきりでいたので、本当に申し訳ないと思いました。

エコノミクス全国大会はとても複雑な場所だと私は感じていました。「そんなの聞いたことないぞ」といった訳の分からない問題もあれば（これはあくまでも私個人の視点であることを追記しておきます）、「小学生でも解けるね」といった問題もあり、はたまた「これ、知力より運じゃないのか…」といったもの、挙句の果てには「プレゼン」や「論述」といった「知力<ネタ力」も存在します。これを「混沌」（カオス）と言わずして何と言おうか。

しかしながら、この「混沌」こそが現在に必要な「知力」（ここでは本来のエコノミクスの主旨に反しますが、あえて「金融」という言葉ははずしています）ではないかと私は感じました。一般的に「知力」とは「知識力」とほぼイコールの関係におかれていると私は考えています。しかし、それでは頭のいいだけのバカを作る他ありません。知識をネタに発展させたり、運を引き寄せたりと様々な力を持った人が、真に知力を持った人たりえるだろう、と私は実感しました。

最後となりましたが、優勝したラ・サールの2人には称賛の言葉を、全ての参加者にねぎらいの言葉を、そしてこのエコノミクス甲子園を支えて下さった全ての方に感謝の言葉を贈り、この文章を終わらせていただきます。

埼玉大会代表：浦和高校 石塚賢志さん

今年のエコノミクス甲子園のことを考えたとき、まず去年のことが頭に浮かんだ。クイズというのもあったが、経済に興味があったので同じクイズ研究会の安藤と組んで出場した。予選、全国大会ともに未だに覚えている。今年出るに当たって、一連の出来事を振り返ってみた。幸い、今年も去年と同じコンビでエントリーできた。去年の教訓を活かし、私は時事の知識を頑張って頭にいれた。全く役に立たなかった去年を思い出してのことだった。

予選がさいたまスーパーアリーナで行われると聞いた時は正直驚いた。しかし、それ以上に自分達は勝てないのかもしれないと思うと緊張した。だからか、埼玉大会で優勝したときは去年とは違う喜びを味わう事ができた。

埼玉大会が終わると、私は学校の勉強をしながらもエコノミクス甲子園の勉強に励んだ。というのも前回の成績が酷かったので少しは上を目指したかったからだ。りそな銀行から貰った資料をはじめ、ニュースや教科書を出来る限り読んだ。なかなか頭に入らないが、それでもなんとかして覚えようと頑張った。

大会当日、大手町の集合場所に着くと、知っている顔がいくつかあって感動した。説明を聞いているときは、自分はエコノミクス甲子園に来たんだなあと思えた。

プレゼンテーションに関してはさほど驚かなかった。なぜなら、去年の仕打ちのほうが酷かったからである。場所や物件が決まっているだけまじと思っただが、決まっている分何にするかこぼった。私は東京に近いので地の利を利用したかったが、殆ど行ったことのない巣鴨だったのであまり役に立てなかった。それでも皆と話し合っているいい案が出たと思う。夜の話合いがエコノミクス甲子園の醍醐味だと去年学んだので、消灯まで寝ずに頑張った。といっても私は消灯時間後も次の日の大会に向けて一人勉強していたのだが。

大会はあまりいい結果ではなかったが、自分自身や相方の安藤も去年よりも楽しめたので、いい思い出になった。貴重な体験を与えてくれた金融知力普及協会のみなさんには是非もう一回ありがとうと言いたい。次回は受験生なので参加はできないが、その後からは是非スタッフとして参加したいと心から思う。

千葉大会代表：渋谷教育学園幕張高校 大畑友理恵さん

学校に掲示されたポスターでエコノミクス甲子園を知りました。元々現代社会の勉強が好きだった事もありますが、初めは無料の教材やお弁当が貰える事が魅力で参加を決めました。しかしチームメイトと共に、先生の力も借りながら勉強するうちに、経済を勉強する事自体が楽しくなりました。

大会を通して知った事は今後の大きな財産になると思います。銀行の方々の大会の演出も、テレビのクイズ番組の様で大いに盛り上がりました。とても楽しかったです！これからは忘れられない、高校時代の貴重な体験をさせて頂きました。特に金融知力普及協会や銀行の方々、学校の先生のサポートには大変感謝しています。

エコノミクス甲子園や私達を応援して下さい下さった方々、本当にありがとうございました。

千葉大会代表：渋谷教育学園幕張高校 小石降也さん

エコノミクス甲子園に出場して

私の父は中小企業の社長として働いています。時折父が話してくれる仕事の話は私にとってまったく未知の世界であり、とても面白いものでした。そんな父の仕事を見ているうちに、社会の流れや経済というものに興味を持ち始めてはいましたが、それはまだ進路を考える上で選択肢の一つに過ぎませんでした。

大畑さんに誘われ、この大会に参加することを決めた時も、クイズや経済に対する情熱などを持っていただけでなく、ただ自分が勉強する上でのきっかけ作り程度の軽い気持ちでした。しかし、しばらく勉強を進めるうちに、大会に向けたクイズのための勉強から、自分の好奇心を満たすため、自分の将来に活かすための勉強へと自分の中で自然に切り変わっていくのを感じました。

全国大会ではプレゼンテーションや、G20の連想クイズなど、ただ知識だけに囚われない柔軟な発想を問うものも数多く出題され、自分の理解の浅さを実感させられました。

結果は残せませんでしたが、学校の先生方を始め、多くの人に助けをもらい、普段触れることのない多くの人たちと関わることが出来て、とても楽しい充実した経験になったと思います。

始めは軽い気持ちで参加したこの大会でしたが、自分の進路を考える上で重要な転機になりました。来年度の参加は難しいですが、今後も興味を失わずの一つでも多くのことを学んでいきたいと思います。

関東大会代表：開成高校 横田昴之さん

僕は去年から二回連続でこの大会に出場させていただけるという幸運に恵まれた。ここから、僕がエコノミクス甲子園に出て、感じたことを書いて行きたいと思う。

最初に思ったのが、協力することの難しさと面白さだ。今年も去年と同様にプレゼンクイズがあり、四チームでまとまってプレゼンの案を出し合うことになったが、これがなかなか難しくかった。皆で空き店舗を視察したところまでは良かったが、なかなかいいビジネスアイデアが出てこない。皆で意見を出し合い、話し合いながらいろいろな案を吟味した。アイデアが決まってからは、わりととんとん拍子にプレゼン作成が進み、結果的にはいいプレゼンが出来て良かったと思っている。大会前日に他の高校と交流し、一つの目的に向かって努力することはとても面白かった。この交流は、エコノミクス甲子園の和気あいあいとした雰囲気につながっていると思う。今後もこのプレゼンクイズは続けて欲しいと思った。

二つ目に思ったことは、クイズの楽しさだ。当日、我々参加者には見当もつかないような多種多様なクイズ形式が連続で行われ、常に「次はなにをやるのだろう」という緊張感と高揚感が入り交じった気持ちでクイズができて、非常に楽しかった。特に、夕飯だと思ったらペーパークイズ、敗退だと思ったら準々決勝進出といった、参加者の裏をかくようなイベントが続き、非常に面白かった。僕らのチームが準々決勝で敗退した後も、楽しく仲間のクイズ観戦が出来て、本当に面白かった。

三つ目に思ったことは、全国大会の厳しさだ。僕らは準々決勝で負けてしまったが、それは単純に実力の差だったと今は納得している。努力が足りなかった。今年は正直もっと上を目指していたが、力不足で準々決勝敗退という結果になってしまった。負けたときは悔しさと、関東大会で敗退していった他のチーム、特に開成の2チームに申し訳ないという、ある種の罪悪感にも似た気持ちが入り混じって、複雑な心境だった。だが、全国大会という場で他の高校生の皆と一緒にクイズをし得た経験は、勝ち負けを超えたかけがえの無いものとして僕の中に残った。この大会に出場できたこと自体がとても幸せなことで、貴重な体験をさせていただいた金融知力普及協会の方々やスタッフの方々には、この場を借りて心からお礼を言いたい。ありがとうございました。

僕の第四回エコノミクス甲子園は終わった。これから時間をかけて、この大会で得た知識、経験を今後の人生に生かしていきたいと思う。

関東大会代表：開成高校 遠藤優さん

僕は、社会科は得意で好きな教科でしたが、歴史・地理が中心で、経済は学校の授業以外では余り親しむ機会がありませんでした。そのため、エコノミクス甲子園への参加を決めた当初は、中途半端な気持ちでした。しかし、楽しみながら経済知識を学び始めることができ、関東大会が近づくにつれ、真剣さが増してきました。

また、経済の勉強が進むにつれ、経済が身近に感じられるようになり、日経新聞の経済記事を興味深く読むようになりました。関東大会は、正直勝てると思っていませんでした。だから、優勝が決まった時はとても嬉しかったです。

全国大会では、他校の参加者と組み、プレゼン内容を考える作業がとてもいい思い出になりました。僕達のチームは、秋葉原担当となり、指定された物件の立地条件が悪かったため、苦労しましたが、でも、皆で真剣に力を合わせて良いプレゼンを作り上げることができました。

最終結果は、準々決勝敗退となりました。全国大会に出場するからには、優勝したいという気持ちがあったので、残念ではありましたが、精一杯頑張ることができたので悔いはありません。これからもエコノミクス甲子園で学んだことを生かし、経済の動きに関心を持ち続けていきたいと思います。

金融知力普及協会の皆様をはじめお世話になった皆様、全国大会出場者の皆様、このような貴重な機会を与えて下さったことに感謝しています。

神奈川大会代表：聖光学院高校 田抜大輔さん

今回、初めてエコノミクス甲子園に参加して普段ではなかなかできないような経験をする事ができました。

まず、初日に行われたフィールドワークである。くじを引かされ、引き当てた場所へ行き用意された空き店舗にどんな店を開くかを考えてプレゼンを行うというものである。町に行く通行人に話を聞き、自分たちでプレゼンを考える。通行人を呼び止めて、話を伺う。これだけ言うと単純で簡単なことに思われるが、実際は急いでいる方が多く（さすが東京）思うように話を聞くことができなかった。その後は、夜中の12時までプレゼンを考え、それから自分たちの部屋でプレゼンの原稿をパートナーと協力して練った。この作業、実際は1時間半ほど掛かったのだが、30分くらいしか経っていないように思われた。時間が過ぎる速さを感じたのも1つの貴重な体験だった。

大会では「G20に関する問題が出る。」という事前通知があったので、どんな問題が出されるのか気になっていた。しかし、いきなり「1チーム1国が割り当てられ、様々なヒントを元に自分たちが割り当てられたチームを当てろ」という問題が出題されたときには驚いた。この時(正確にはしばらくして落ち着いてから)、このエコノミクス甲子園のスタッフさんは色々と考えて問題を作っていると思ったのを覚えている。結局、途中敗退してしまい準々決勝に進むことはできなかったが、全国の予選を勝ちあがってきたチームのレベルの高さを実感した。

大会終了後のパーティでは、皆も私も大会の結果など忘れて盛り上がっていた。その中で行われたビンゴ大会で獲得した景品「すかし君」（お札に透かしが入っているかを見ることができる機械）は大会参加記念(思い出の品)として大切に保管している。

この大会に参加して最も新鮮だったことは大会が終わった日の夜、大会に参加していたほかのチームの人々と色々な話をしたことだ。様々な地方の人と様々な話、自分たちが住んでいる地域のことや学校のこと、などをすることは普段は決して経験することができないようなことで自分と違う環境で暮らしている人々が何を考え、どのように暮らしているかについての話をすることは私にとって忘れられない貴重な経験になった(ちなみにこの時某有名進学校の生徒さんと話をしたのだが、その話のうまさにはさすがだと驚嘆した)。一応、12時就寝ということになっていたのだが『一応』なので気にしないでおこらう(スタッフの方も大会参加者達と一緒に過ごしていたようである)。

最後に、3日間というとても短い時間であったけれどとても貴重な体験ができたことを改めて大会に携わった方々に感謝したい。ありがとうございました。

神奈川大会代表：聖光学院高校 宮下敬聖さん

正直なところ、全国大会に出るなんて思ってもみませんでした。エコノミクス甲子園に参加した動機も経済が好きだから、というよりも高校時代の思い出として何かイベントに参加したいと思ったからでした。だから全国大会は結果など気にせず、とりあえず楽しめればよいと思っていました。

そんな気持ちで臨んだ全国大会ですが、プレゼンの仲間たちの熱気に押され、気づけば自分もエコノミクス甲子園に対して真剣になっていました。部活が文化系の為、仲間と一緒に何かをやり遂げるという経験は乏しかったのですが、プレゼンを仲間たちと作り上げていく中で、意見を戦わせながら協力して作り上げることの楽しさを体感し、とても充実した時間を過ごしました。出題された問題は、単に経済用語を問うものではなく経済を理解しているかどうかにかまけられたペーパーテストやテーマに従って短時間で知識と意見を組み合わせる発表する論述クイズなどで、知識量よりも知識の質が必要とされている自分にはかなり手ごわいものだと思いました。

全国大会を通じて私は多くの人と出会い、多くのことを感じました。まず、周囲の意識の高さに驚きました。皆が知識を得るということに関して非常に貪欲に思えました。自分もそれなりに知識欲があるほうだと思っていたのですが、皆を見て自分はまだまだ甘いと感じさせられました。また、皆はあらゆる場面で青春を謳歌しているのだなとも感じました。今まで自分の人生に充実感を感じたことが無かった私には、そんな皆はとてもしきしきとしているように見え、これまでの中高生活を充実させられなかったことを深く後悔しました。高校生活も残り一年となり、その大半を受験勉強に費やすと思いますが、残り少ない高校生活を悔いが無かったと振り返れるように毎日を精一杯過ごしたい、そんな気持ちになりました。

エコノミクス甲子園に参加したことで私は経済を知り、より強い興味をもつようになりました。新聞やニュースといった情報の見え方、感じ方が変わり、より深く理解できるようになったことは大きな収穫でした。

最後になりましたが、このようなすばらしい場を提供してくださった金融知力普及協会、神奈川大会からお世話になった横浜銀行の方々を始めとするすべての関係者の皆さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

富山大会代表：高岡商業高校 井上文武さん

僕がこのエコノミクス甲子園の予選に出場したのは、教頭先生の、「お前大学も決まって、せっかく三年間、商業の基礎を学んできているのだから、自分の力を試しにエコノミクス甲子園の富山大会に出てみないか」という一言からでした。大会自体は知っていて、出てみたいとは思っていましたが、まさか先生から言われるとは思っていませんでした。既に大学も推薦で決まっていたので、あっさり出ると、言ってしまいました。ちょうど同じ部活動の菅野も大学が決まっています、簿記の実力は県で一位という彼を誘うと、ぜひ出てみたいといってくれて、富山大会出場を決めました。

商業高校ということで、経済について普通科の高校よりは習っていますが、ほとんど簿記・会計の知識しかありません。相方の菅野は経済が好きで、暇があれば本屋で経済に関する本を読んでいます。一方で、全く本を読まない僕は、彼から勉強する本や資料をたくさんもらい、少しでも力になればと思いながら必死に勉強しました。富山大会で、決勝の舞台に立った僕は緊張のせいで、早押しボタンを押せるような状態ではありませんでした。そんな中、ほとんど全ての問題に相方の菅野が答えてくれたことに、ただただ感謝するばかりでした。去年の富山の代表である、片山学園高等学校を下し、全国大会出場が決まったとき、僕は「まさか」の一言だけが頭の中をよぎりました。

全国大会の切符を手に入れた僕たちに、教頭先生をはじめ、先生方は今までにない笑みを浮かべていました。しかし、井の中の蛙、海を知っているような、知らないような私は、全国大会のレベルをまったくつかめていませんでした。いや、完全につかめていないわけではなく、僕たち商業高校から比べれば、漠然と高いレベルだということは分かっています。

した。商業高校である私たちがラサール高校、灘高校のような全国でも有数のレベルの高い高校と同じ舞台上で戦えるだけで幸せでした。

東京に着いた日に、次の日のプレゼンのため、くじ引きで5つのグループに分けられました。僕たち秋葉原班は開成、名古屋大学付属、観音寺高校から成り立ち、名古屋名物であるあんこ巻きを秋葉原で売り込むという新しい発想をプレゼンすることに決定しました。僕はこの共同作業の中で、他校の生徒の金融知力のレベルの高さ、教養の高さ、頭の切れも兼ね備えていたことにただただ感心するばかりでした。

全国大会の壁はやはり厚かった、地区大会と違って、いつ、どこで、何が始まるのは予想もつかないことが次から次へと行われていく中、僕は感動と驚きで、みなさんのスピードには追いつくことができませんでした。結局大会は芳しくない結果に終わりましたが、全国の舞台上でたくさんの経験ができ、同じグループになった皆さんや全国各地から来た代表と一緒に戦えたことは非常に光栄でした。僕はもう3年生なので来年は参加できませんが、大学で国際経済についての知識をしっかり勉強し、今度は大学生スタッフとしてこの大会を支えていきたいと思います。

最後になりましたが、金融知力普及協会のみなさん、スタッフのみなさん、地方大会も含め、一緒に戦ってきたみなさん、なにより最後まで助けてくれた菅野。本当にありがとうございました。この経験は私の一生の宝物となりました。

富山大会代表：高岡商業高校 菅野真さん

僕が、このエコノミクス甲子園の予選に出場したのは、一年先輩の井上さんに誘われたからです。僕は内向的な性格なので、最初の印象はあまりよくありませんでしたが、今は友達だと思っています。

僕は本屋で本を立ち読みすることが多く、様々な知識を吸収していました。会計の勉強をするようになってから、会計と経営と経済は、それぞれ密接な関係を持っていると分かってからは経済の本も立ち読みするようになり、しだいに経済に興味を持つようになりました。そして、井上さんにエコ甲に誘われた時に、「今まで培った知識を試してみたい。さらに知識を深めたい」と思い参加することにしました。しかしもともと、新聞でエコノミクス甲子園の存在を知っていたので、少しの憧れはありました。

全国大会へは、様々な本を持って行きましたが、役に立つことはありませんでした。冬休みにかけては、アメリカの経済や金融危機について中心に調べていましたが、それよりももっと基本的なことを学ぶべきだったと思います。そして、全国レベルというものを改めて実感しました。もともとそのようなジレンマはもっていたのですが、これほど思い知らされたのは初めてです。それとともに、これほど楽しかったこともなかなかありませんでした。ちょっと疲れたけれど、負けた悔しさよりも楽しさの方が勝っていました。この楽しいエコノミクス甲子園に来年から僕も大学生スタッフとして参加できれば、何よりも喜びに感じるでしょう。

楽しかったエコノミクス甲子園ですが、とても緊張していました。実は左足の震えが止まりませんでした。地方大会の決勝でもずっと震えていました。精神的に億病なので、とても大変でした。しかし、井上さんが声をかけてくれたおかげで現実に戻ってくることができました。井上さんがいなければ、全国にも出られなかったし、また、これだけ大会を楽しむこともできなかったでしょう。僕は、文章が下手なので何があったかは相手の井上さんにお任せしますが、これが僕の全国大会の感想です。僕を、ここまで引っ張ってくれた井上さんに感謝します。そして、普段は言えないし、そういう態度も取れないけれど、井上さん、尊敬しています。これからもよろしく頼みます。

石川大会代表：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高校 堂岸優貴さん

自分は今年ですが、去年は出場しませんでした。今になってそのことが悔やまれます。しかし、後輩の小田君と組んでいなければ地区大会で同じ金大附属の「あえの風」（能登半島の和倉温泉の二番手の旅館の名前です）チームに勝利を収めることはできなかったでしょう。

エコノミクス甲子園がこんなに楽しい大会だとは思ってもみませんでした。感想文提出期限日の今日この日になってすら、あの3日間のことは鮮明に記憶しています。

この文章を読んでいるあなた、もしも今あなたが出場するかどうか迷っているのだったら是非出てみてください。学校の勉強に比べてすぐに実生活で役に立つ知識が身につきますし、きっと他では得られないような友人ができることでしょう。

さて今大会において、我がチーム「国民総生産」は準決勝で敗退しました。しかし、G20クイズの3位抜け、準々決勝2位通過などと、金大附属の名に恥じめ活躍ができ、ある程度は満足しています。これは小田君の深い知識、そして共に浅草を歩き回ったメンバーのおかげであります。みなさん本当にありがとうございました。

大学は関東のほうに行きたいと思っています。参加者、スタッフの皆さん、紫色のちょっと変なメガネをかけた人がいたら声を掛けてください。

石川大会代表：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高校 小田拓弥さん

第4回エコノミクス甲子園全国大会に出場して良かったことは、全国の色々な人に出会えたことと、現代社会の中で我々に求められているものを改めて認識することが出来たことです。

1つ目に関しては、単に楽しい友達が増えた、というだけでなく、全国にはこんなに恐ろしいライバル達がいるのだ、ということを感じ知らされ、新鮮な気分でした。

2つ目に関しては、この大会での敗北を通じて学べたことが多くあったように思います。

僕達は準決勝の論述クイズで惨敗しました。この敗北を通して痛感したことは、この大会で試されているのは、経済用語などの知識量ではなく、知識をもとに思考する能力である、ということです。現実の社会に存在する因果関係を把握し、様々な可能性を考え、論理的に、目先のことばかりでなく何十年も先のことをも予測する能力。エコノミクス甲子園で戦っていくために必要なのはそのような能力であり、また、その能力は、現代社会の中で我々に求められている能力でもあるのだと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった主催者の皆様、全国大会で共に戦った皆さん、そして、僕の突然の頼みにも関わらず快く承諾して共に出場してくださった相方の堂岸先輩に、感謝の言葉を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

福井大会代表：高志高校 清水貴央さん

反省

今回は二度目の出場でした。前回は地方・全国共に相方に頼り切りだったので、一年間自分なりに必死に勉強して今回の大会に挑みました。地方大会ではその成果が出たため、今年はいい結果を残せるかもしれないと、自信を持って全国へと挑みました。しかし、またしても相方に頼り切りになってしまい、結果は無残なものとなってしまいました。

自分の実力の低さ、自分の甘さ、そして上位のレベルの高さを再び痛感しました。ここで止まることなく、彼らを目指して、さらなる努力をしたいと思います。

得られたもの

今回のプレゼン制作で、浅草寺にゴミ箱がないことに不便を感じ、発表する項目に加えました。しかし発表後、「ゴミ箱が無い理由を考えて」と言われてはっとしました。私の考えは不便を改善しようという、その一方通行であることに気がつきました。社会に出たら知識だけでなく、思考する力も必要であることに気づき、その瞬間に自分の世界が広がるように感じました。様々な角度から見て考える、得た知識を上手く生かす、難しいことですが、それを意識すれば世界はどんどん広がっていく、考えただけで興奮しました。今回の大会で一番の収穫は、自分の可能性を感じたことです。

最後に

大会の結果は大敗でしたが、とても大きなものを得ることができました。大会を通じて友達が増え、共に協力し、競い、話したりと、とても楽しい思い出できました。彼らとは今後より一層、交流を深めていきたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。

東海大会代表：名古屋大学教育学部附属高校 戸澤法也さん

そもそも、僕は世の中の流れに非常に無頓着で、ましてや経済学云々を語れるような風流人とはかけ離れた人間でした。根っからの理系で、経済はセンター試験で使う範囲内でしか学ぶ必要はないと思ってささいました。

そんな自分を坂野くんがエコノミクス甲子園に誘ってくれたのは去年の夏でした。センター試験対策ついでに一度やってみようという気持ちで、僕は参加を決めました。実際に勉強をし始めたのは地方大会の一ヶ月前です。始めてみると実に奥深い内容ばかりで、かつて公民で面白みの欠片も感じられなかったものが、色々な身近な例を添えて面白く書かれています。その為、僕は内容を瞬く間に理解できるようになり、結果として金融知力の虜になってしまったのです。こうなってしまったのも相方のせいだと思っています。

地方大会で全国大会進出を決めた日、嬉しさや感動が僕の中からこみ上げてきたのは家に帰ってからでした。会場では実感があまり湧かなかったのです。とは言ったものの、僕にとって公の場でクイズをするのは初めてだったので、大会中は非常に緊張していました。全国大会へ向けての勉強を始めると、次第にセンター試験の内容から外れた経済学用語なども学ぶようになりました。最初の目的から離れてはいましたが、金融知力にハングリーになっていた僕は坂野君が勧めた資料をひたすら読み漁りました。

全国大会では、結果は準優勝と惜しくも優勝を逃しましたが、十分に頑張った末での結果だったので、悔いはありませんでした。地方大会の時と比べて、不思議と大会中は全く緊張することがなく、冷静に取り組むことができました。大会を通して、多くの仲間と出会い、見果てぬ世界を知り、多くの方々に良い意味で影響を受けました。

金融知力を知らないまま成人した自分が別の並行世界にいるとしたら、必ず「エコノミクス甲子園で勉強しておけばよかった」と言っているに違いありません。それ程に、このエコノミクス甲子園で学んだ金融知力は自分を護ってくれる大切な知識となる、と僕は信じているのです。

先日、ある納豆メーカーの工場長がテレビで「この不景気は勝者なき戦いである」と仰っていました。なるほど、「知って得をする」時代ではなく、「知らないと損をする」時代なのだなぁ、と僕は思いました。知らないが為に様々な余分な支出を見つけられず、結果損をしてしまう。そのような事態にならない為にも、金融知力は必要不可欠なのです。

エコノミクス甲子園に参加出来たことを誇りに思います。大学受験からすれば、少し寄り道になってしまったかもしれませんが、今後の長い人生を考えると、避けては通れない道であったのではないかと思います。

最後になりましたが、開催に尽力された協賛銀行ならびに企業やスタッフの方々、我々を応援してくださったの方々、何より僕の相方である坂野君に感謝の意を表します。高校生活の中で最高の3日間でした。ありがとうございました。

東海大会代表：名古屋大学教育学部附属高校 坂野慶太さん

私は前回の大会で4位に終わり、雪辱を果たすべく、この1年頑張ってきました。

新聞やニュースをチェックすることはもちろんのこと、懸賞論文や株取引などにも挑戦してきました。

「エコノミクス甲子園は知識だけでは勝てない。」去年そう実感した私は、いかに知識を自分のものにし、アウトプットできるようにするかを考えてきました。そうして学習を深めていくうちに「勝ちたい」という気持ちが「もっと知りたい」に変わっていきました。急速に落ち込む景気、目まぐるしく変わる社会情勢に中で今なにが必要なのか、なにをどうすべきか。多くのことを肌で感じ、考えてきました。

それから、あっという間に時は流れ、地方大会の日がやってきました。学校の友人をはじめ、多くの方々が応援してくれている。ここで負けることはできない。その気持ちが先走ってしまい、ミスを連発しました。なんとか決勝までコマを進めると、周りは強敵ぞろいでした。この中で全国大会へ進めるのは1チームだけです。その緊張感の中、相方にも助けられ優勝することができました。しかし喜びのもつかの間、全国大会用の教材を渡された私は、翌日から早速教材に取り組みました。

そして、いよいよ全国大会です。集合場所である、りそな銀行本店では懐かしい顔がちらほらありました。前回の大会でお世話になった先輩方がスタッフさんとして頑張っているのを見て、その姿にあこがれを抱くと同時に、優勝への決意は一層深まりました。

開会のあと早速、課題が発表されました。都内5か所の空き店舗を有効活用するビジネスの提案をするというものです。私たちは開成、高岡商業、観音寺第一とともに秋葉原班になり、早速現地へ視察に行きました。現地では、近所への聞き込み調査はもちろん、大家さんに直接お話をお聞きするなど、徹底的にマーケティングを行いました。

宿に着くとすぐに、「歓迎セレモニー」がありました。そこで行われた第1ラウンド筆記クイズ。4択と短答式、論述式の問題でした。難易度が非常に高く、制限時間いっぱいを書き上げましたがとても満足できるような解答ではありませんでした。

結果として個人2位という成績ではありました。ただ、1位の外山くん（灘）とは大きく差が開いており、自分の実力不足を痛感しました。

夕食の後は4チームでプレゼンの準備をしました。チームの皆とは創造的で活発な議論を交わすことができました。その時のメモを見てみると、皆は多くの視点から鋭い考察をしています。

翌日の大会2日目のことはほとんど覚えていません。緊張と興奮がピークに達していました。唯一しっかりと記憶があるのは決勝戦です。決勝戦は名大附、愛光、ラ・サールの巴戦。ゲーム理論を利用したクイズです。お互いが協力すればお互い大きな点数をもらえます。一方が裏切れば、裏切った側には更に大きな点がもらえますが、協力した側の得点はごくわずかなものです。ここで、私たちはただただ「協力」をし続けました。戦略としてはベストどころかベターですらないこの判断を私は間違っているとは思いません。精一杯戦いました。結果はラ・サール高校には及ばず2位でした。ただ結果には満足しています。悔しいとは思いませんでした。今も悔しいとは思いません。優勝したラ・サール高校の知識量や決断力などは私の比ではありません。彼らには心の底から「おめでとう」と言いたいです。

大会が終わってから解散までは常に誰かと会話していた気がします。エコノミクス甲子園で知り合った仲間たちは皆がみんな輝いていました。皆を尊敬しています。同時に自分の小ささを実感しました。

最終日、名古屋駅で帰りの新幹線から降りるとき、乗っていた仲間たちと握手をしました。今でも鮮明に覚えています。ほんの一瞬でしたが、お互いに気持ちは通じていたはずです。

本当に貴重な体験ができました。エコノミクス甲子園には感謝しています。そんな大会に2回も出場できたことを大変嬉しく、そして誇りに思います。

大会が終わってからもニュースや新聞をチェックすること、またそれについて自分なりに考えをまとめてみることを欠かさず行うようにしています。将来の希望進路はまだ決まっていませんが、ここでの経験を生かし、様々なことを学びたいと思っています。

全国にできた素晴らしい友人、お世話になったスタッフの皆さん、東海大会を主催してくださった愛知銀行さん、この大会を支えてくださったすべての皆さん、そしてなにより、相方である戸澤。本当にありがとうございました。